

# 茨木市議会報告会の概要

1. 主 催 茨木市議会

2. 日 時 平成27年11月10日（火）午後7時～午後9時

3. 場 所 福祉文化会館302号室

4. 内 容

①開会あいさつ

②議会改革推進委員会による議会の仕組み・議会改革の取り組みの報告（資料1）

③各常任委員会からの報告

- ・民生常任委員会（資料2）
- ・文教常任委員会（資料3）
- ・建設常任委員会（資料4）
- ・総務常任委員会（資料5）

④質疑応答

⑤閉会あいさつ

5. 参加者 39人のご参加をいただき、質疑応答では、6人の方々から報告に対する質問や議会に対する要望などを受けました。

6. 会議記録

【質問者】

- ・民生常任委員会報告について、冊子（報告資料）を見れば「見守り」が一番多く出てくる言葉。次いで「認知症」。高齢者は見守られる存在なのか。私はそうではないと思う。真逆の言葉で「一億総活躍」という言葉があるが、一人一人がきょうも生きていてよかったと実感できることが大事で「見守られている」という状態は幸せではないと思う。
- ・自分も茨木市で始まったシニアボランティア制度に登録していて、きょうも桑田荘で2時間、将棋の相手をしてきた。パーキンソン病で動作も難しい方だったが、楽しい時間を過ごせた。感謝されることから生きている実感を得ることが、認知症の進行を遅らせるのではないか。

【答弁者】

- ・今取り組まれている高齢者施策は、去年、一昨年とかけて再構築されてきた。高齢者を弱者と見るだけでなく、主体者として元気に暮らしていただくという視点をベースにして、施策を進めているところである。
- ・シニアプラザでの新しい活動や介護保険を使ったシニアボランティア制度もさせていただいているので、今後も民生常任委員会で見守っていく。高齢者は「見守られる」弱者の立場でないことも認識している。

#### 【質問者】

- ・議会報告会は今回で3回目。条例によると「説明責任を果たすために実施する」とあるが、過去の議会報告会をどのように評価しているのか。
- ・ランキングにこだわらないという報告があったが、早稲田大学のマニフェスト研究会が毎年、議会報告会について評価している。茨木市議会の順位は一昨年から去年にかけて下がっており、条例のない吹田市より下のランク。府下で5番目に条例を定めていただきながら、それがどの程度実践されているか、世間的に評価されていないというところは考えていただきたい。
- ・条例策定時のパブリックコメントで「報告会はどのようにやられるのか」と質問があった。答えは「実施要綱や基準を定めて開催する」ということだったが、今日現在、実施要綱や基準が定められていないと私は理解している。先進的な市町村では実施計画を定めたり、条例の運用基準をきちんと定めている。茨木市では、どのように取り組んでいただくのか。
- ・議会基本条例には「開かれた議会」という文言が多く記されているが、議会改革推進委員会は依然として非公開。去年も、なぜ非公開なのか尋ねたところ、合意を得るために自由闊達な議論をしたいからと言われたが、私の常識では理屈に合わない。3年かけて改善されていないのはなぜか。
- ・議会報告会が試行中というのは理解できなくもないが、議員の皆さんの任期は4年で、来年が最終年になる。何事もそうだと思うが、スピード感を持って進めていただかないことには、市民の目から見て物足りないと感じる。
- ・箕面市議会は意見交換会、吹田市議会も有志ではあるが、意見交換を中心に行っている。堺市は、大阪府下では最上位、8位の評価。条例を定める前からやっていて5回目。今回は6つの委員会にわかれて、市民と議員が同じテーブルで2つのテーマをめぐって物の見事に意見交換会を行っている。報告会を始める前に宝塚市の議会報告会を見に行かれたようだが、どんどん世の中進展しているので他の議会報告会も見に行ってはどうか。

#### 【答弁者】

- ・説明責任を果たすため議会報告会を開いていこうというのが、条例上の定めでもあるので、その立場で進めている。報告会は3回目とはいえ、試行中であり実験段階、試行錯誤しながら定めていこうという途中の状況であるという理解でお願いしたい。引き続き議論していく。
- ・議会改革推進委員会が非公開ということについて、事実としては前回もご質問を受けたので議題に乗せ協議している。議論した上で非公開でという到達になっている。議論の中身について、誰がどう言ったかは、この場の趣旨には合わないので控えさせていただく。議会全体として、全会一致で合意を図りながら進めて行こうという考えで進めている。この立場で議論をした結果、議会改革推進委員会の扱いは非公開でという結論になっている。
- ・ご発言の趣旨は理解する。報告会のあり方についても、ご意見を参考にしながら、議会改革推進委員会で諮っていきたい。

#### 【質問者】

- ・阪急駅前を見ながら思うこと。12月に市民会館が閉鎖され、つぶされるが、高槻市は今までの市民会館を建て直して1,400人収容できる市民会館を再構築する。茨木市で市民会館がなくなるということに、議会の皆さん方は、どのようにお考えになっているのか。市民会館は市民に必要な施設。それを十分お考えになってご回答いただきたい。

#### 【答弁者】

- ・議会で市民会館については、さまざまな質疑や議論がなされているが、議員一人一人や、会派によって

さまざまな意見がある。今回は議会全体の報告会の場であるので、この場では1つのご意見として受け取らせていただきたい。

**【質問者】**

- ・政治は“生治”イコール“生きることを治める”という立場で堅苦しく考えず、リラックスして頑張つて、勉強したことを市民に聞かせて欲しい。認知症や高齢者などこだわらずに、みんなで楽しく何か趣味を持って生きればよいのではないか。

**【答弁者】**

- ・今後の参考にさせていただく。

**【質問者】**

- ・建設常任委員会の自転車の報告について、6月にルールが改正され、地元で警察と協議もしている。大阪府は全国でもマナーが悪い。茨木市も例外ではない。府道において自転車道がイオンの両側にあるが、市民から受ける言葉は「行きはイオン側を通るが、帰りは、わざわざ渡って反対側を通ることはしない。帰りに関しては歩道を走っているのだから改善していない。」という声を聞く。今挙げた例は府道だが、市道においては自転車道の計画があるのか。
- ・自転車ルール改定の周知ができていないと感じている。子どもには周知の機会があるが、中高年には機会がない。中高年への周知の方法について、どのように計画されてるのか。
- ・警察とやりとりをしていると、切符を切りにくいということも聞く。私はルールを守る観点からもう少し厳しくしてもよいと思うが、警察との協議はあるのか。
- ・以前は、事故を起こして怪我をするなど言っていたが、これからは事故を起こして怪我をさせるなど指導している。保険制度を市内の自転車屋さん聞いたが、高齢で取り扱いができないお店が多い。市内のどの自転車屋さんで保険の取り扱いがあるか調べていただきたい。お願いしておく。

**【答弁者】**

- ・6月の改正法で罰則が強化されたが、市民が加害者にも被害者にもならないということが建設常任委員会では大事だと考えている。中高年にどうルールを知ってもらうか。私達も乗ってみてルールがいろいろとあることがわかってきた。引き続き協議していく。
- ・警察の取り締まり強化についてはわかりかねる。

**【質問者】**

- ・自転車道ができ、車椅子が歩道を通りやすくなった。しかし、ルールがわかっていない方が多いと感じることがある。報告の中で表示された標識も、車を運転する人はわかるが免許のない人は標識がわかりにくい。知的障害のある方で自転車に乗る人にルールをどう伝えるかも必要になってくる。
- ・マナー向上について、小学生は勉強もしているが、中学生以上から高年齢の方は自転車ルールの勉強をしていないことも多く、歩道を並列で走っていることがあり、怖い。例えば、ロサヴィアの下は自転車が通れないことになっているが、自転車の人が結構通っていたりする。マナー向上で杭とかを立てているが、車椅子やベビーカーが通りにくい。マナー向上をどう市民に周知するかが課題だと思う。そこに焦点を当ててもらいたいと思う。
- ・当事者視点で実際にまちを自転車で走ってもらえたことはよかった。

**【答弁者】**

- ・ご意見と受け取らせていただき、今後の参考にさせていただく。